

平成 30 年度 安価な耐震改修工法講習会ご質問回答

重要なお質問及び回答は各年度から抜粋し、『木造住宅低コスト耐震補強の手引き』の第 5 章に載せています。

平成 31 年 3 月 12 日（火）に開催された『安価な耐震改修工法講習会』の受講者の方より提出されたご質問について、以下のとおり回答をいたします。

●工法に関する質問等

○減災協工法について

Q1. 耐震補強について、現状の建物には筋かい設置があります。筋かい付きに合板（構造用 9,12）の補強が A-213 が可能ですが、入隅壁には受材と筋交いがぶつかります。そこで筋交いを除いて合板の耐力にすることが当たり前と言われていきます。土壁の外に筋かいを加えている従来の構法を生かして合板を加算した工法実験できないでしょうか。

A. 要望として承りました。

Q2. A-233 と A-435 を入隅で利用するとき、A-233 は A-233(カ)として評価してよいか。

A. 単独で利用する場合は、面材の抑え込み効果が無いことから安全率を考慮して評価するものとし、「対象壁負け」と同等性能の片側受材仕様「単独壁」として評価してください。

Q3. 添え板の厚みと使用する釘の長さを厚みに応じてどれくらい長くしなければならぬでしょうか。

A. 添え板厚を除き柱梁への埋込長さが通常時と同じように担保できるようにしてください。

Q4. A-233,A-213,A-113,A-423 など裏棧なしのタイプで「2 隅アケ」や「4 隅アケ」など新規にラインナップしてほしい。

あるいは上下アキはよく使えますが、A-233 は 3.64kN/m と A-111 ほかに 5.2kN/m の間で。あるいは A-222 とかで電気配線のための共通仕様を示してほしいです。

A. 要望として承りました。